



CHALLENGER

[挑戦者たち] 14



Oriental white Stork

コウノトリ

試験放鳥まで苦難の連続だった
「コウノトリ野生復帰プロジェクト」。
放鳥から1年を経た今、
その足跡と新たなる課題を探る。

プロローグ

平成17年9月24日、コウノトリの
郷公園。あふれる人の波。3500
人が今か今かと心待ちにしていた。

「コウノトリ試験放鳥」。それは、人
と自然が共生するまちづくりを目指
す「コウノトリ野生復帰プロジェクト」
にとって、大きな第一歩。いよいよコ
ウノトリが、大空へと放たれる。その
時、歴史的瞬間を目に焼きつけよう
と集まつた誰もが固唾をのんだ。

「元気いっぱい大空に羽ばたいてく
れよ」。その中でも、ひと際緊張して
いる男がいた。主任飼育員の佐藤稔
だつた。飼育現場の責任者として、祈
る気持ちで状況を見つめていた。

試験放鳥の日が決まってからの1
ヵ月半は、気の抜けない毎日の連続。
多くのスケジュールが組まれていた。

ノトリを大空に返したいと、必死の
努力を続けた先人たちの魂に報いる
必要があつたからだつた。

放鳥日に向けて、何度も予行演習を
繰り返した。世界でも類のない試み。
いやがおうにも大きくなつて行った。

臆病な性質を持つコウノトリに、過
度のストレスは厳禁。少しでも負担
をかけないように、普段より倍以上
の気を使う。エサの量が減った時に
は、好みのエサを与え、健康管理にも
細心の注意を払つた。放鳥箱からう
まく飛び立てるように、体型や性質
を考慮して、箱の中身はすべてコウノ
トリ1羽1羽に合わせて改良する念
のいれよう。事務方を含め、現場の
スタッフが一丸となつて取り組んだ。
「彼らを動かすものはなにか」。

創刊号掲載受付中!
先着二十店限定! お問い合わせ下さい。



ご主人の心を暖簾に品めてお部屋を
のれん研究会
詳しくはメールでお問い合わせください。
kanshikai@magic-co.jp

無料
ご主人の心を暖簾に品めてお部屋を
のれん研究会
詳しくはメールでお問い合わせください。
kanshikai@magic-co.jp

一枚から、こだわりをつくります。
オーダーメイドのれん
より良い物をご家庭に合むお部屋をつくります。

フクフク販売会社 有限会社 マジック

ブリーダイヤル ヤ ッ タ イン ザ ザ

0120-049-132

日本 住 日高町高音寺948 TEL0798-44-0073

岡山県 新見市北津町11-3 TEL0795-22-5237

www.magic-co.jp





昨年 自然放鳥されたコウノトリ

日本で野生のコウノトリが絶滅して、35年。かつて日本の各地を悠々と舞っていたが、昭和46年、但馬から最後の1羽がその姿を消した。

手探しの毎日

生態を知る男であった。
しかし、捕獲したコウノトリは、卵を産むもののヒナがかかるることはなかつた。いたずらに過ぎる時間。
そんな受難の時代が続いた保護活動に、昭和60年、転機が訪れる。旧ソ

昭和40年には「全国唯一」の人工飼育専門施設として、「コウノトリ保護繁殖センター」が誕生する。

4半世紀かかつたヒナ誕生から飼育
数100羽の到達まで13年、さらに試
験放鳥まで3年の歳月が流れた。
様々な人々の思いが託された世界
初の試験放鳥。開けられた箱から気
持ちよさそうに飛び立っていく。コウ

しかし、農薬の影響などによる工場の激減や、巣つくりするための木が減つたことなどから数は徐々に減少し、ついに日本から絶滅した。同時に、それは日本がコウノトリの住める環境を失つたことを意味した。

あつたが、そこからさらなる試練が始まる。毎年、繁殖に成功するものの、飼育数は増えていかなかつた。コウノトリの繁殖飼育には、「ミニュアル」は存在しない。すべてが未知の領域。

急激に個体数の減少を招いた昭和30年代以降、官民一体となつた保護活動が行われ、コウノトリを捕獲し、飼育下での繁殖が試みられてきた。

算式に、2、3年後にはクリアするだろうと思っていたのです。でも、実際にやってみると違う。特にペアリングは難しく、うまくいった方法が必ずしもすべての鳥に当てはまることが

昭和40年には「全国唯一」の人工餌育専門施設として、「コウノトリ保護増殖センター」が誕生する。

4半世紀かかって誕生から銅鑄100羽の到達まで13年、さらに試験放鳥まで3年の歳月が流れた。様々な人々の思いが託された世界最初の試験放鳥。開けられた箱から気持ちよさそうに飛び立っていく。コウ



巣づくりをする放鳥コウノトリ

潜在能力の高さ

放鳥から1カ月が過ぎ、放鳥コウノトリの行動にも様々な変化が見られるようになってきた。ペアで行動することが多くなり、コウノトリの郷公園近くの田んぼで、自力でエサを探ることも日に日に増えていった。

しかし、行動範囲は郷公園周辺に限られた。本来は渡り鳥の性質をもつ鳥。「飼育したコウノトリが、遠く自由に大空をかけめぐることは無理なのかな」。不安にかられるスタッフ。少しでも自然界に近い形でと、放鳥コウノトリの飼育ゲージは広くとり、羽根の筋力トレーニングを行った。「せめて出石までは飛んで欲しい」。

試験放鳥から約4カ月が経とうとしていた平成18年1月20日。郷公園に大きな知らせが入った。1羽がなんと、京都府宮津市まで移動したのだ。

その後、このコウノトリは福井県若狭沖から大阪市まで南下。さらに、

ノトリが大空に帰ってきた光景を目にし、誰もが大きな歓声をあげた。

飼育員の佐藤。ほつと胸をなでおろした。だが、これから道のりが本当に険しいものだと、悠然と空を飛ぶ姿を見つめながら考えていた。「生きのびてくれよ」。また、心配性の虫がうずき始めた。

宝塚市、神戸市、福知山市を経て、怪我もなく郷公園に無事戻ってきたのであった。

まさにコウノトリの潜在能力に驚かされる大冒險の旅。スタッフ全員が、「自分たちのやつてきたことに間違いはなかつた」と確信する出来事でもあった。

よく観察しろ

放鳥コウノトリの能力の高さを感じていた頃、もう一方の試験放鳥コウノトリに異変が起きていた。その試験放鳥とは、風切り羽根の一部を切つた♂アを天井のないオープンゲージで飼育・繁殖させ、巣立ちした幼鳥を自由にさせる段階的放鳥のことをいう。

例年にない大雪で環境は最悪だったが、3月の終わりに無事産卵。この卵はリスクを避けるため、別のペアの卵と交換されたが、ヒナもかえり、順調に子育てが始まっていた矢先、事件が起こった。

ヒナをトンビが襲ったのだ。飼育員たちにとつては思いもよらない出来事。親鳥がヒナに与えていたエサを狙つての行動だった。今まで外敵に襲われることのなかつた親鳥は、パニックになつた。

原因はちよとしたエサの時間帯によるものだった。段階的放鳥コウ

豊かな暮らしをサポートします

お問い合わせはもちろん! 水廻りやトイレ修理もあり!
どんな小さなことでもお気軽にご相談ください。

**建設なら
全ておまかせ**

新規会社 新築専門
●専門スタッフがサポート
●施工監査
●実績多数

TEL 0798-0016 兵庫県芦屋市一色町1878-17
TEL 0798-34-0050 FAX 0798-34-0077 <http://www.shinken-shirane.com/>

シングケンホーム

ノトリのエサの時間が、他の鳥とは違つたのだ。エサの時間や順番を変えすることで、問題は解決した。

佐藤は松島から言われた「とにかくよく観察しろ」という言葉を思い出した。コウノトリの飼育に教科書はない。すべてが初めての試み。些細なことが判断ミスを引き起^こし、時には死に追いやることがある。だからこそ、飼育員は毎日よく観察し、異変を感じとらなければならない。

改めて、言葉を発しない生き物と接している怖さを体感した日であった。

挑戦はまだ続く

コウノトリ放鳥から1年。自然放鳥された5羽のコウノトリは、元気に大空を翔^飛回^るっている。人工巣塔ではなく危険な電柱に巣づくりを始めるなど、人間たちをハラハラさせながらも、彼らなりに必死で自然と向

き合^つっている。「電柱に巣をつくることも、電柱のある場所がエサ場に近く、そこで巣づくりを行わざるをえない環境なのかもしません。コウノトリの野生復帰は、まだ始まつたばかり。課題をひとつずつ乗り越えていかなければなりません」と、佐藤は話す。

トンビに襲われるという災難にあつたコウノトリ。今まで経験したことのない過度のストレスを感じ、羽根がボロボロになりながらも、外敵からヒナ鳥を守り、懸命に子育てを行つている。これは、安全が確保されていた今までの飼育環境では見られなかつた防衛本能だという。子を持つ親として、その姿を見るのがたまらなくうれしいと、佐藤は語った。

「コウノトリ野生復帰プロジェクト」。これは単なるコウノトリを野生に返すという挑戦ではない。コウノトリが

翔る郷を復活させることは、人と自然がバランスよく共存した環境条件を取り戻すことである。

郷公園周辺の農家では、農薬・減化学肥料の農業に積極的に取り組み、環境に配慮した里山づくりを行ってきた。市民グループは子供を中心^に自然観察会を開くなどして、次の世代を担う人づくりの活動を地道に続けている。

佐藤が何度も発した、「次の世代へつなげたい」という言葉。コウノトリを羅針盤として、自分たちの環境を見直す輪は、確実に広がつている。何十年、あるいは何百年とかかるかもしれない壮大な計画。人とコウノトリがともに暮らせる時代を願う人々の挑戦は、まだまだ続く。

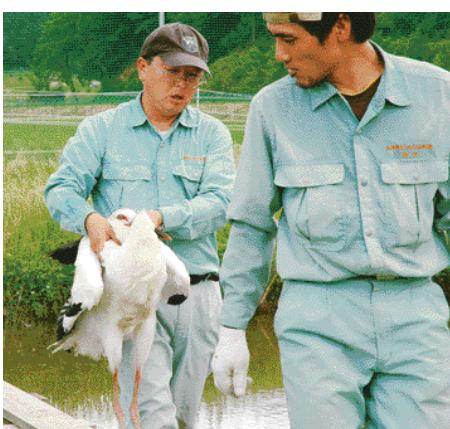
参考文献:『シリーズ但馬V 但馬のこうのとり』



試験放鳥前 放鳥箱を使ってのシミュレーション



人工巣塔で巣づくりを始めるコウノトリ



放鳥コウノトリに発信器をつける作業の様子

